

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200828		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	グループホーム宇部		
所在地	山口県宇部市大字西岐波229番地の3		
自己評価作成日	令和2年5月25日	評価結果市町受理日	令和2年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>病院が併設しており、常勤看護師を中心に急変時の早急な対応や日常の定期受診など病院との連携が出来ている。昼食作りや2か月1回のおやつ作りなど利用者と共に行い家庭的な雰囲気大切にしている。ペラランダに季節ごとの花を利用者と共に植え、毎年梅の実の収穫を行い、梅シロップを作っている。季節ごとの行事や毎月、定期的に大正琴ボランティアが来て下さり、また毎年ハンドベルや日本舞踊のボランティアの方にも来て頂き交流を深めている。 家族の方とは、食事会や家族交流会を開き家族と過ごす時間や他の家族との交流が出来る機会を設けている。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年6月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が安心して暮らせるように家族との連携に努めておられます。運営推進会議や食事会、家族交流会などの行事案内を家族に出しておられる他、事業所での本人の暮らしぶりや健康状態など細かいところまで気遣われ、こまめに連絡をされたり、運営推進会議の勉強会では高齢者施設や認知症について、ストレス解消法など、家族が安心されるような講座を組んでおられます。理念の「その人らしい」を活かしたケアを心がけておられ、縫い物好きの利用者にはエプロン作成を支援されたり、給食センターに勤務を経験されていた利用者には昼食づくりの中心として活躍できる場を提供しておられるなど、利用者一人ひとりの思いや意向に沿った支援をしておられます。病院が併設されており、常勤看護師を中心に利用者の健康管理や医療、MSWとの連携がスムーズに行われ、利用者は安心して暮らしておられます。職員は法人内の他の事業所を見学され、それを参考にして行事や利用者の関わりについて話し合いをされ、利用者の希望が叶えられ、ドライブなどの外出や誕生会などの行事が組みやすくなったり、職員も働きやすくなるなど、業務改善に取り組んでおられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所内に理念を掲示して、スタッフ間で共有すると共に、ケア会議や申し送り時に話し合い実践につながるよう努めている。</p>	<p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を事業所内に掲示している他、事業所だよりに掲載している。全体会議やケア会議、申し送り時に、確認して共有している。理念に基づき、年度当初に年間目標（・チームで統一した質の高いサービスを提供する。・生活の活性化を図る）を定め、ケアの実践に努め、年度末に目標の評価を行い、理念と目標、実践がにつながるよう職員間で共有している。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>法人が自治会に加入しており、代表が総会に出席して地域の情報を得ている。定期的に地域の方にボランティアに来て頂き交流を深めている。また、地域の文化祭に利用者の作品を出展している。</p>	<p>事業所は自治会に加入し、代表者が総会に出席して地域の行事等の情報を得ている。法人内の清掃活動に利用者と職員が参加している。地域の文化祭に、利用者の作品を出展している。隣接の病院や法人主催の文化祭に利用者は家族と一緒に参加し、併設施設や地域の人と交流している。ボランティアは大正琴演奏、腹話術、日本舞踊、ハンドベル、南京玉すだれなどの他、散髪ボランティアの来訪が定期的であり、交流している。周辺の散歩時に法人内の施設利用者や職員と挨拶を交わしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>見学や相談に来られた方、また電話での問い合わせなどでグループホームについての説明や相談などを行い対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員に自己評価及び外部評価の意義を説明して職員全員で項目を理解して自己評価を行い、管理者が意見をまとめている。外部評価の結果を受けてケア会議等で話し合い改善に取り組んでいる。	管理者は、職員に評価の意義について説明し、各職員はガイド集を参考にして、自己評価を行い、管理者がまとめている。外部評価の結果はケア会議等で話し合い、前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て全職員での自己評価への取り組みや、応急手当や初期対応の研修の定期的な実施、併設病院の研修にも参加出来るようにしているなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を実施している。利用者の状況やボランティアの交流、季節の行事やおやつ作りなど日々の様子を報告している。また、法人内外から毎回講師を招き勉強会を行っている。出された意見を取り入れるよう努めている。また年1回家族交流会の前に会議を行いたくさんの家族に参加して頂けるようにしている。	会議は年6回開催している。利用者の状況や行事予定、活動報告、事故・ヒヤリハット報告等をして話し合っている他、講師を招いての勉強会を実施している。意見交換では勉強会についての質問や食事会の会場の検討、家族交流会はゆっくりと交流する時間を持つためにグループホーム単独での開催や家族が多数参加しやすい時期の検討、事故報告書の改善策は具体的に記載したほうが良い等について話し合っている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当に運営推進会議に参加して頂き意見交換、認知症高齢者に関わることや市としての取り組みなど情報提供をしてもらい意見交換や相談をしている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話等で、感染症対策等について話し合い、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、利用状況の確認や在宅でグループホーム利用希望があるか等について情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に関する指針」の内容を理解して定期的に身体拘束についての研修を行っている。職員全員が意識して拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしないように努めているが入浴時など時間帯によっては玄関の施錠を行っている。	「身体拘束廃止に関する指針」があり、職員は内部研修(併設病院の身体拘束ゼロ推進委員会の担当者が講師)で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「身体拘束等適正化検討委員会」は年4回、運営推進会議の後に管理者や計画作成担当者(2名)、事務部(3名)のメンバーで実施している。スピーチロックについては、日常業務の中で話し合い、気になる場合は管理者が指導したり、職員間で話し合い、適切な対応に取り組んでいる。玄関の施錠はしないで、外出したい利用者があれば職員と一緒に出かけるなど気分転換を図っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行っており職員全員で意識を高め防止に努めている。言葉使いや接し方など職員間で気になることがあればその都度話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に数名の方が利用されていた。現在は利用されている方はいないが必要があれば関係機関と連携を取り活用できるようにしている。また研修などで制度について学ぶ機会を設けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始の前に家族との時間を作り十分な説明を行っている。また家族の質問や不安なことなどをお聞きして理解・納得を図っている。改定等あればその都度説明会を開いたり、書面でお知らせをして家族に説明・了解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でのやりとり、運営推進会議ケアプランの説明の時など家族に利用者の様子を伝えて意見や要望、不安なことなど聞いている。 玄関に意見箱を設置して活用できるようにしている。苦情の相談窓口・受付体制第3者委員を明示して処理手続きを定めており、契約時に家族に説明をしている。	重要事項説明書で、苦情・相談窓口と受付・処理手続き、公的機関の窓口等について、契約時に本人と家族に説明している。家族からの苦情や相談は、面会時や運営推進会議参加時、ケアプラン説明時、食事会や家族交流会等の行事参加時、「ひだまり・ホープだより」等の送付時に聞いている。便りでは、利用者を担当している職員が、3ヶ月の活動内容と利用者の暮らしぶりや健康状態など細やかなところまでコメントし、必要に応じて連絡をすることで、家族が意見を出しやすいように工夫している。家族からは運動をさせてほしい等の希望があるなど、個別ケアの相談はその都度、職員間で話し合って対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議で意見や提案を聞く機会を設けている。他にも何か意見や問題点などがあれば書面に記入してもらいその後話し合いをして職員の意見や提案を反映させている。また各ユニットごとに意見ボードを設置しており各ユニットの意見や提案を出せるようにしている。	管理者は、毎月の全体会議やユニット会議、日常業務の中、業務担当(行事、物品、園芸等)から、職員の意見や提案を聞いている。各ユニットにボードを置き、利用者のこと、新しい伝達や業務のこと、職員の意見や提案などのメモを貼り、情報の共有をしている。職員の要望で全体会議を毎月開催することを始めている。日勤で2人勤務体制になる日があるため、法人内の2人体制の事業所見学を行いそのことを参考にして話し合い、各ユニット毎でドライブや散歩、誕生会などを実施するようになり利用者の希望が取り入れやすく、職員も働きやすくなるなど、改善されている。各ユニットの自主性を取り入れ、運営やケアの充実に努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況の把握に努めているが勤務体制が変わり業務変更などがあり十分な環境整備が出来ているとはいえない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	内部研修の年間計画を立て、担当職員が 講師となり月1回研修を行っている。 併設病院の研修があり、全員が受けられる 形になっている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段 階に応じて勤務の一環として受講の機会を提 供することになっているが、今年は職員の急な 退職等で受講できていない。法人研修は、 「医療安全」をテーマに開催し、職員18名が 参加し、参加できなかった職員は資料を閲覧 している。内部研修は、年間計画を立て、担 当職員が講師となり、毎月第4木曜日に、防 火訓練、急変時の対応(誤嚥、脳出血、骨折 時)、口腔ケア、身体拘束防止、感染症、認 知症(レクリエーション、コミュニケーション、転 倒、BPSD)、改めて考えるグループホーム等 について実施している。新人研修は、管理者 が職場規定(理念、接遇、高齢者の介護等) について説明後、日々の業務の中で管理者 や先輩職員の指導を受けて、働きながら学べ るように支援している。運営推進会議の中で 家族を対象に勉強会を実施し、職員には資 料(ストレスチェックと解消法、宇部市の高齢 者施設の種類と入所状況、認知症の方が自 宅で住み続けられるための地域の工夫等)で 報告し、家族と職員間で共有している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	法人の他のグループホームへ見学を行い 意見交換や情報を得ている。 良い面や参考になることを取り入れサービス の質の向上に取り組むようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安に思っている ことなど把握して訴えが軽減して安心して 日常生活が送れるように努めている。 また職員間で情報を共有し対応を統一 するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所時などに家族の不安なことや要望など情報収集を行い職員間で情報を共有し家族の不安解消に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が困っていることや不安なことなど情報収集を行い必要なサービスを見極め支援出来るように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしのなかで掃除・洗濯たたみや洗濯干し・料理や盛り付けなど一緒に行い利用者・職員共に支え合える関係が築けるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出や電話での会話やハガキのやりとりなどを支援したり、面会時ゆっくと過ごせるように配慮している。 食事会や家族交流会で家族と一緒に過ごせる時間を設けている。ユニット便りや写真を掲示して本人の様子や活動などを伝えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚・友人などの面会や電話ハガキのやり取りなど支援している。 また美容院やなじみのある場所など家族の協力を得て外出する機会を設けている。	家族の面会や親戚の人、友人、同級生、近所の人の来訪がある他、電話やはがきでの交流を支援している。自宅付近のドライブや北向日蔵の参拝に出かけている。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や墓参り、外出、外食、一時帰宅、外泊等をする他、食事会や家族交流会で家族と一緒に過ごせる時間を設定したり、ユニットだよりで本人の様子を伝えるなど、利用者が安心して暮らせるように家族との連携に努めると共に、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士なじみの関係が出来るようにテーブルでの席の配置を考えたり、一緒に洗濯干しなど行いお手伝いを通してのなじみの関係が出来るように支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	骨折などで退院した後もリハビリの後に再入所出来るように病院や施設のMSWと連携を取りあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を生活記録や活動記録に記録して職員間で共有して担当職員を中心に意向に添えるように努めている。また利用者によって困難な場合は日々の暮らしの中で会話や行動などから利用者の立場になり職員間で話し合い思いを汲み取るように努めている。	入居開始前のサービス利用施設や入院先で本人の面談を行う他、本人の来所を依頼して本人・家族と面談している。入居時に、センター方式を取り入れた事業所独自のアセスメントシートを基に、本人や家族から入居前の情報や今後の意向・希望等を聞き取り、思いの把握に努めている。日々の関わりの中での利用者の発した言葉や表情、行動を生活記録に青色で記録して、思いや意向の把握に努め、介護計画に活かしている。生活記録は、把握した情報がすぐに記録できるように台所に置いている。利用者からの把握が困難な場合は家族から情報を得たり、職員間で話し合って本人本位に検討している。家族と連絡が取り合いたいという利用者は携帯電話を所持し、縫い物を趣味としている利用者にエプロン作成を支援し、食事づくり時にみんなが使うエプロンを縫ったり、髪染めを希望する利用者は家族と一緒に美容院に行っているなど、利用者の思いにすぐに添い遂げられるようにしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に家族からの情報収集を行っている。また利用者との会話を通して情報収集を行いスタッフ間で共有出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の出来事や訴えや体調など申し送り表や生活記録に記入して職員全員で統一したケアが出来るように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望や本人の思いなどを聞き担当職員や計画作成担当者を中心に話し合い介護計画を作成している。1か月ごとにモニタリングを行い6か月ごとに見直しを行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを月1回実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者や家族の意向、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の思いや訴えなど言葉を記入している。何か変化があれば申し送り表にも記入して職員間で情報を共有できるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪ボランティア、訪問歯科やかかりつけの歯科の受診などその時々に合わせて対応に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の大正琴ボランティアや定期的にハンドベルや踊りのボランティアに来て頂き楽しんで参加できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>併設病院をかかりつけ医にして定期受診している。耳鼻科・眼科・循環器など専門外来があり必要に応じて受診している。さらに詳しい検査が必要な場合は他の病院を紹介して受診している。</p>	<p>利用者や家族の納得を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は月1回の定期受診と耳鼻科・眼科・循環器科などの受診支援をしている。耳鼻科・眼科・循環器科以外の他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。歯科は必要に応じて往診がある。受診結果は申し送り簿に記録し、職員間で共有している。家族には電話や面会時に伝えている。利用者の健康管理は看護師を中心に行い、医療、MSWと日常から連携し、緊急時や夜間は協力医療機関と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤看護師を中心に利用者個々の状態や健康管理を行っている。何か変化があればすぐに看護師に状態を伝え対応し早期に受診できるように支援している。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院のMSWを中心に連絡を取り入院や退院などの情報交換を行っている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りに関する指針があり、事業所で出来ることを家族に説明している。家族や本人の要望を聞き、安楽で安心できるように家族や担当医、職員と話し合い方針を決め支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に「看取りに関する指針」に基づいて、事業所でできる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、医師の説明後に主治医や看護師と医療機関や他施設の移設を含めて話し合い、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が発生した場合、事故・ヒヤリハット報告書を記入してリスクマネージャーの助言を受けて再発防止に努めている。 必要に応じて併設病院のジェネラルリスクマネージャーの助言も受けている。 研修に急変時の応急手当や初期対応など取り入れ全職員が実践力を身につけるように努めている。	事例が生じた場合は、「事故・ヒヤリハット報告書」に発生日時、発生場所、内容、原因、利用者への対応・処遇等、家族への説明、今後の改善策等を記録し、管理者、リスクマネージャーの助言を受け、ケア会議で再検討して、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人研修で医療安全について学び、内部研修で急変時の対応（誤嚥、脳出血、骨折時）、感染症対策について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜の火災などを想定した法人の防災訓練に職員が参加している。事業所内でも年2回防災訓練を実施しており初期消火 声かけ・避難経路の確認など身につくように取り組んでいる。またその都度問題点があれば話し合う機会を設け次の訓練に活かしている。	法人施設合同で年2回、昼夜を想定した火災時の避難訓練を実施し、職員が参加している。事業所で、年2回、内部研修時に、台所からの出火や風呂場からの出火を想定しての避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方 の訓練を利用者と職員が一緒に実施している。職員から避難時にタオルではなくマスクの使用や避難誘導方法について意見が出ており、今後の訓練に活かすことにしている。法人として、地域の自治会や消防署との災害時の協力体制について話し合い、組織を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある「その人らしさ」を大切にして利用者一人ひとりを尊重して言葉かけやプライバシーを損ねないように配慮した対応を心掛けている。	職員は、入職時に理念や接遇、高齢者の介護について学んでいる。理念にある「その人らしい」について、全体会議やケア会議で話し合い、尊厳を大事にして、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者が個別に指導している。個人情報保護について遵守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者の思いや訴えを傾聴して自己決定が出来るように支援している。うまく表現が出来ない利用者には職員が思いを汲み取り自己決定が出来るように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースやその日の気分に合わせて居室での食事や過ごし方など希望にそった支援をするように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装やお化粧など希望に添えるように支援している。季節に合わせた服装が出来るようにさりげなく対応して支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が献立を考え、朝・夕は併設病院が作ったものを一緒に盛り付けを行っている。昼は事業所内で利用者と共に料理や盛り付け、片づけを行いながら会話を楽しんでいる。また、料理の時、野菜の切り方や味付けなど利用者より教えて頂くこともある。	法人の管理栄養士が献立を考え、朝食と夕食の副食は法人の配食を利用している。昼食は事業所で材料を発注し、調理をしている。利用者の好みや状態に合わせて食べやすいように形態の工夫をしている。利用前に給食センターに勤務していた利用者を中心に、米を研ぐ、野菜を切るなどの下ごしらえ、味付け、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど、できることを職員と一緒にこなしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み同じものを食べている。2カ月に1回のおやつづくり(桜餅、柏餅、さつまいもの蒸しパン、ピザトースト、クレープ、おはぎ、梅酒ゼリー、クリスマスケーキなど)、季節の行事食(おせち、節句や節分のすし、たけのご飯など)、梅ジュースづくり、祝日の赤飯やちらし寿司、年1回の食事会、家族交流会の茶話会、家族の協力を得ての外出など食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や残歯の状態に応じて刻みやお粥 水分にとろみをつけて提供している。 食事量や水分量のチェック表にチェックして必要量が取れているか確認している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの見守り・介助を行っている 必要に応じて舌ブラシを用意して一人ひとりに合った対応を行っている。 訪問歯科を利用して定期的に歯石の除去や 口腔内の観察を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況に応じて排泄チェック表を利用してトイレの声かけや誘導を行っている。昼・夜でパットなど使いわけたり尿汚染が少ない利用者にはナプキンを使用している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、人格やプライバシーを尊重した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前・午後にラジオ体操、リズム体操や下肢運動を取り入れ運動をする機会を作っている。 またおやつにヨーグルトを取り入れている。 申し送り表やチェック表に排便日を記入して便秘の時は薬の追加や座薬・浣腸などで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週4回(月・火・水・金)の午前・午後に入浴を行っている。午前の声かけで入浴を嫌がる利用者に再度午後に声かけをすると入られることもあり個々のペースに合わせて入浴出来るように支援している。	入浴は、10時から11時30分と13時30分から14時30分までの間可能で、週4回(月、火、水、金)は入浴できるように支援している。利用者一人ひとりの希望に応じて、入浴順や湯加減に配慮し、好みのシャンプーや化粧落とし、化粧水の使用、入浴剤の利用、気の合う利用者と一緒に入るなど、入浴を楽しめるよう工夫している。入浴をしたくない人には無理強いせず、職員を交代したり、入浴時間や入浴順の変更、声かけを工夫するなどして入浴できるように支援している。利用者の状態に応じて、清拭や足浴、シャワー浴等個々に応じて対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況を把握して希望や体調に合わせて昼寝など休息できるように支援している。夜、寝る前はそれぞれのペースに合わせて声かけをしている。寝具・室温にも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルを作っており薬の作用・副作用がわかるようにしている。薬の変更や増減などがあれば申し送りをして体調の変化に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け・洗濯たたみ・塗り絵パズルなど出来ることを行えるように支援している。利用者のやりたいことを聞きエプロン雑巾作りなどの縫い物やちぎり絵・折り紙など個々の出来ることを活かして楽しみにつなげている。また定期的にボランティアに来て頂いたり、散歩などに行き気分転換が出来るように支援している。	玄関や通路の清掃、掃除機を使う、モップかけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、カーテンの開閉、職員とシーツ交換、プランターの花づくり、苗から花や野菜づくり、水やり、草取り、昼食づくり、おやつづくり、梅ジュースづくり、野菜等の下ごしらえ、米研ぎ、味付け、盛り付け、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗い、テレビ鑑賞、新聞を読む、歌、ぬり絵、習字、編み物、縫い物(エプロンづくり)、手芸、壁画づくり、かるた、トランプ、坊主めくり、福笑い、双六、パズル、輪投げ、新聞紙のゴミ箱づくり、ラジオ体操、リズム体操、誕生日会、季節行事(初詣、節分、雛祭り、クリスマス)、家族交流会、食事会、ドライブ、ボランティアとの交流、家族との外出、外食など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩に出かけている。ドライブや食事会また家族の協力を得て外出する機会が増えるように努めている。	周辺の散歩や外気浴、花の水やり、草取り、季節の花見(梅、桜、つつじ、菖蒲、バラ、ごてちゃ)やドライブ(北向き地藏、周防大橋、宇部空港、二俣瀬)、初詣(琴崎八幡宮)、年1回の食事会、法人主催の文化祭に出かける他、家族の協力を得ての馴染みの美容院利用、墓参り、外食、日帰り旅行、一時帰宅、外泊など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金を所持することがないが本人の安心のための家族同意のもとで小銭程度所持している利用者もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族とのハガキのやりとりをしている利用者もいる。また電話でのやりとりもある。贈り物が届いた時は家族に電話したりハガキのやりとりが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下から桜や梅・つつじなど鑑賞できる季節を感じる事ができる。季節に合わせた壁面と一緒に作り季節の塗り絵を貼ったりしている。ベランダには季節の花を植えて季節感を感じてもらえるように工夫している。空調管理にも気を付け快適な暮らしが出来るように支援している。	事業所は2階にあり、各ユニットは中庭を挟んで居室を配置している。玄関先やベランダのプランターには季節の花を植えて、利用者が四季を感じる事ができるように支援している。各ユニットの食堂兼リビングは、自然光が入り明るく、壁面には利用者と職員と一緒に作成した季節の作品や行事の写真などを飾っている。畳コーナーは掘りごたつ対応で、テレビを囲んで利用者のくつろげる場になっている。室内にはテーブルや椅子等を配置し、利用者が思い思いの場で過ごせるように工夫している。台所は対面式でご飯を炊く匂いや盛り付けの様子が見えて、生活を感じる事ができる。居室やトイレの場所が分かりやすいように大きな字や矢印で案内表示をしている。温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、共用のスペースでも自由に過ごせるように環境作りに取り組んでいる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスや机、小物や家族の写真など好きなものを飾りその人らしく過ごせるように環境作りに取り組んでいる。	居室の入り口に大きく書いた名札を貼り、利用者が作成した花を飾って、自分の部屋をわかりやすくしている。利用者は、衣装ケース、椅子、時計、ラジオ、小物入れ、本、サボテン、ぬいぐるみなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族や自分の写真、カレンダー、自分の作品などを飾って本人が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど目印をつけてわかりやすくしている。食堂のテーブルの配置や老人車の位置、ベットの位置など安全に過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 宇部

作成日: 令和 2 年 12 月 17 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のメンバーは、運営規定を満たしているが、GHが改善出来るように外部の意見をいろいろもらえるようにする。	運営推進会議のメンバーの拡大を図る	地域包括支援センターの職員など交渉する	2年
2	15	定期的に応急処置や初期対応の研修を行っているが、実践力を身につけるために継続して研修を行う。	応急処置や初期対応など事故防止の取り組みや事故発生時の備えを継続して行う。	・定期的に研修を行う ・併設病院が行っている研修に参加する	2年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。